

RESAS

を分析してみよう

熊本県
水俣市

RESAS (地域経済分析システム) は、地域経済に関する様々なデータ (産業の強み、人の流れ、人口動態など) をグラフで分かりやすく「見える化 (可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

人口

<https://resas.go.jp>

RESAS



人口推移グラフ

熊本県水俣市



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値。2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村）をまとめて推計しているため表示されない。総数には年齢不詳を含む。

*人口マップ→人口構成分析→人口推移

年齢別人口推移

2020年の人口は総人口23,557人。10年前(2010年)の26,978人と比較すると減少傾向にあり、2050年にかけてさらに減少傾向が続く見込みである。また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口についても減少傾向にあるが、減少幅が少なく、老年人口割合が増加する傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。

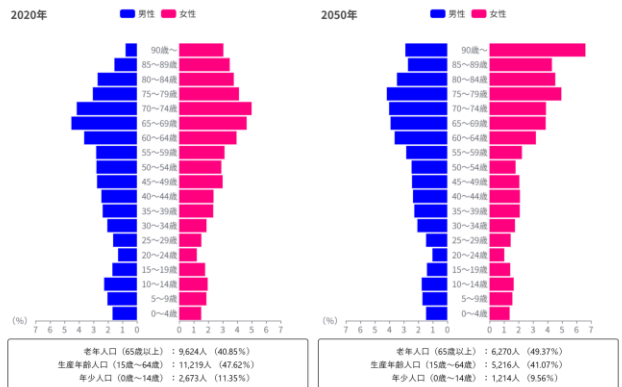
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす。

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2050年の人口ピラミッドは「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の40.85%から2050年には49.37%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の47.62%から41.07%まで減少する見込みである。

人口ピラミッド

熊本県水俣市



老年人口 (65歳以上)	: 9,624人 (40.85%)	老年人口 (65歳以上)	: 6,270人 (49.37%)
生産年齢人口 (15歳～64歳)	: 11,219人 (47.62%)	生産年齢人口 (15歳～64歳)	: 5,216人 (41.07%)
年少人口 (0歳～14歳)	: 2,673人 (11.35%)	年少人口 (0歳～14歳)	: 1,214人 (9.56%)

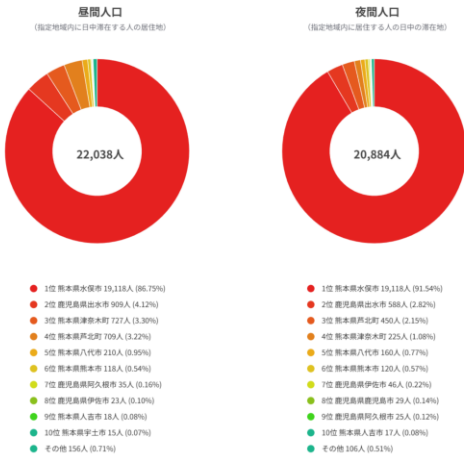
【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村）をまとめて推計しているため表示されない。総数には年齢不詳を含む。

*人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

人口

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

2020年 熊本県 水俣市
 昼間人口：22,038人
 夜間人口：20,884人
 (昼夜間人口比率：105.53%)



【出典】
 総務省「国勢調査」
【注記】
 昼間人口：この画面においては、就業者または通学者が従業・通学している従業地・通学地における15歳以上の人口であり、従業地・通学地集計の結果を用いて算出された人口をいう。
 算出方法は「地域に常住する人口」＝「地域から通勤者又は通学者として流出する人口」＋「その他へ通勤者又は通学者として流入する人口」
 テレワーク勤務に関しては、定義上からテレワーク勤務が半分未満の場合は勤め先の所在地が従業地となるため、「流出人口」「流入人口」に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、「流出人口」「流入人口」に含まれない。
 家庭勤務者の、夜間の学校に通っている者も便宜上昼間就業者・昼間通学者とみなして昼間人口に含めているが、買物者などの非定常的な移動については考慮していない。
 夜間人口：この画面においては、地域に常住している15歳以上の人口である。
 昼夜間人口比率：この画面においては、夜間人口100人当たり（15歳以上）の昼間人口（15歳以上）の割合であり、100を越えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。

「平成22年国勢調査」による数値に関して、平成22年10月1日以降に合併した若手県一関市（一関市、藤沢町）、熊本県熊本市（熊本市、西方町、若手町）、埼玉県川口市（川口市、榑谷町）、愛知県豊田市（西尾市、一色町、吉良町、及び稲垣町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、鳥根県出雲市（出雲市、斐川町）の自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

*人口マップ→通勤通学人口分析→地域間流動

滞在人口（2020年）

昼間人口と夜間人口を地域別構成割合で示したグラフである。
 水俣市の昼間人口は22,038人、夜間人口は20,884人である。昼夜間人口比率105.53%と、通勤・通学等での人口流入が多いことがわかる。

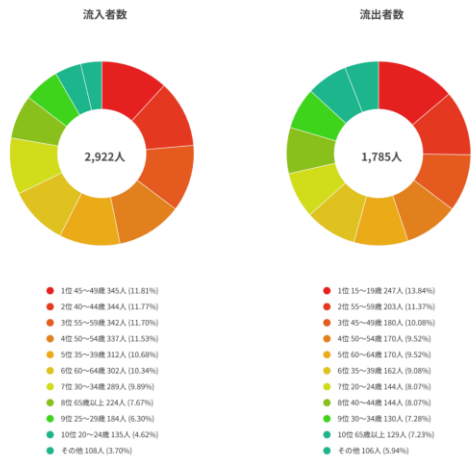
※15歳以上の人口を対象として算出している。

流入・流出者数（2020年）

水俣市内外への流入・流出者数を年齢階級別構成割合で示したグラフである。流入超過数が1,137人と市内への流入者が多い地域であることがわかる。また、流入者数は45～49歳、流出者数は15～19歳がもっとも多くなっている。

流入者数・流出者数の年齢階級別構成割合

2020年 熊本県 水俣市
 通勤者・通学者で見える
 人数
 流入者数：2,922人
 流出者数：1,785人
 (流入超過数：1,137人)



【出典】
 総務省「国勢調査」
【注記】
 通勤者：この画面においては、15歳以上の自宅以外の場所で就業する者（主として高等学校や専門学校、各種学校に通学する者）を対象とする。
 ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が従業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、通勤者には含まれない。
 通学者・通学者：この画面においては、15歳未満も含む通学者（自宅以外の場所で就業する者）と15歳未満も含む通学者（主に高等学校や専門学校、各種学校に通学する者）を対象とする。
 ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が従業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を従業地とするため、通勤者には含まれない。

この画面において、流入者数、流出者数、流入超過数、流出超過数には、特別区および同じ指定都市下の行政区間の流入者数・流出者数は含まれていない。

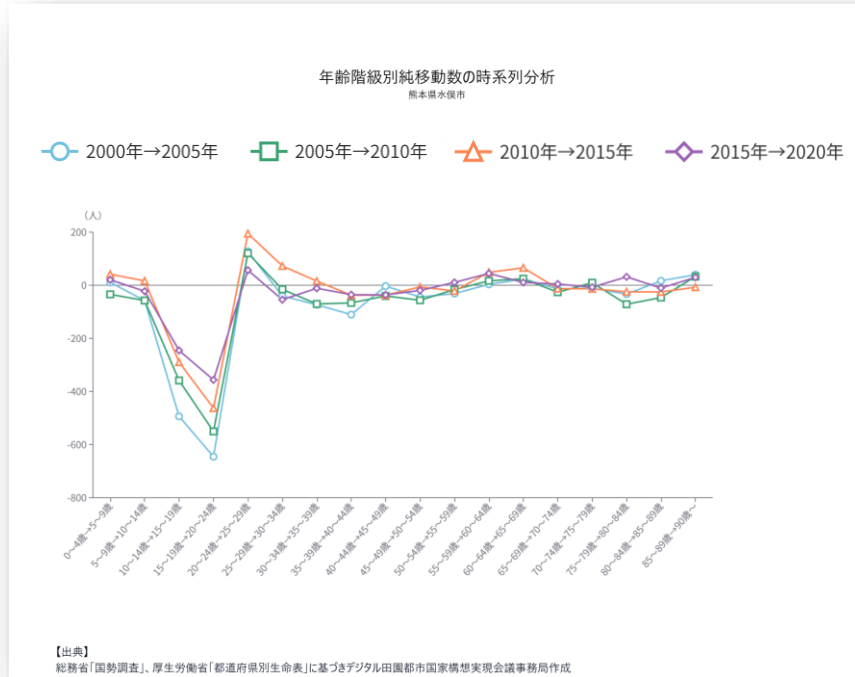
「平成22年国勢調査」による数値に関して、平成22年10月1日以降に合併した若手県一関市（一関市、藤沢町）、熊本県熊本市（熊本市、西方町、若手町）、埼玉県川口市（川口市、榑谷町）、愛知県豊田市（西尾市、一色町、吉良町、及び稲垣町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、鳥根県出雲市（出雲市、斐川町）の自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

*人口マップ→通勤通学人口分析→属性別流動

人口

年齢階級別純移動数時系列分析

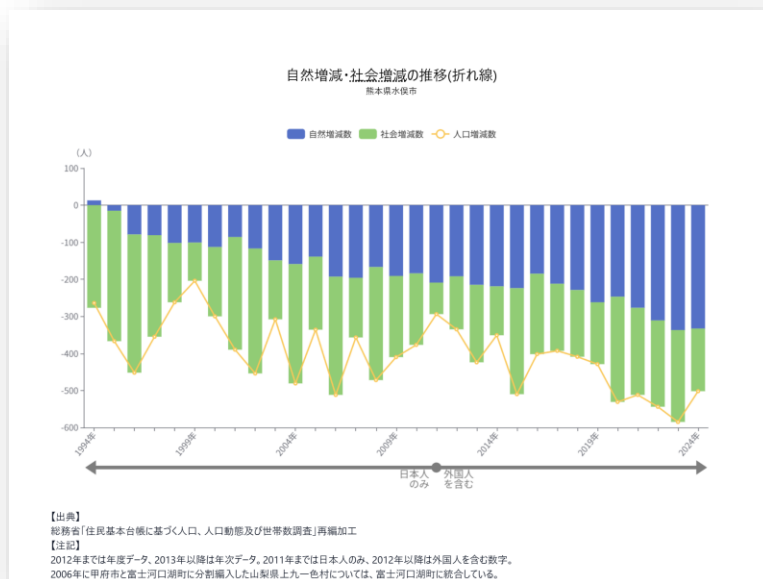
年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時(15~19歳→20~24歳)に人口が流出し、就職時(20~24歳→25~29歳)に人口が流入する。その後、30~40歳代では概ね均衡に近い水準で推移しており、子育て世代以降定着傾向にある。



*人口マップ→社会増減分析→人口移動

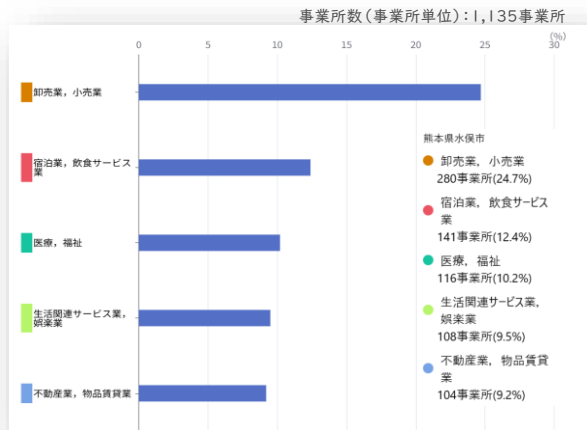
自然増減・社会増減の推移

自然増減数(出生数から死亡数を引いた値)と社会増減数(転入者数から転出者数を差し引いた数値)の推移を示したグラフである。近年、自然減・社会減の傾向が強ク、全体の人口としては減少している。



*人口マップ→人口増減分析→グラフ

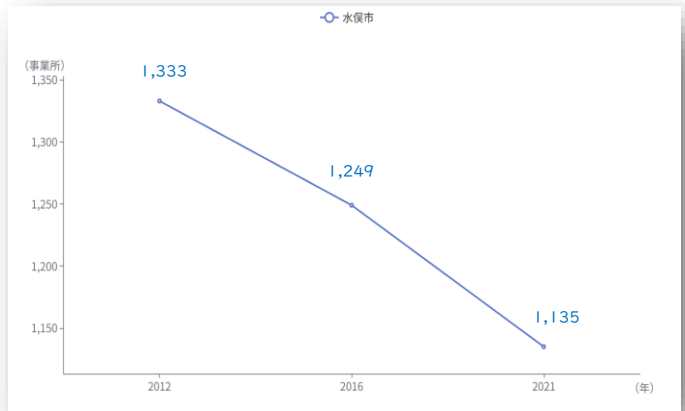
産業構造



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)

事業所数(事業所単位) 大分類 (2021年)

業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の280事業所で、全体の24.7%を占めている。その後「宿泊業、飲食サービス業」の141事業所の12.4%が続く。

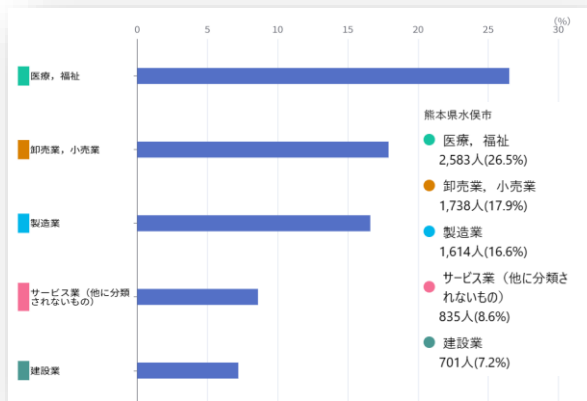


*産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

事業所数の推移 (2021年)

事業所数の推移をみる。2021年は1,135事業所であり、5年前の2016年は1,249事業所だったので、比較すると9.1%減少している。

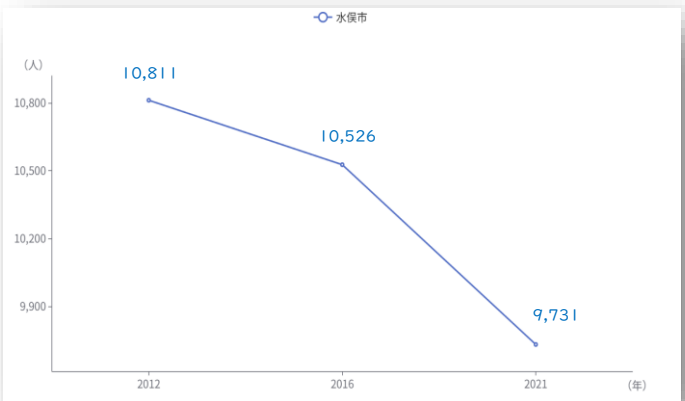
従業者数(事業所単位): 9,731人



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従従業員数)

従業者数 (2021年)

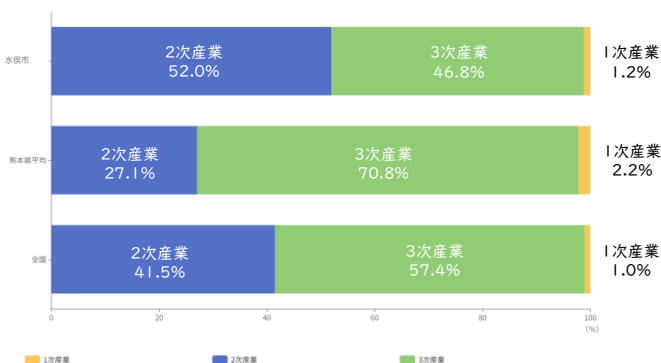
業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは2,583人で、「医療、福祉」全体26.5%を占めている。その後「卸売業、小売業」の1,738人の17.9%が続く。



*産業構造マップ→産業構造分析→推移(従従業員数)

従業者数の推移 (2021年)

従業者数の推移をみる。2021年は9,731人、5年前の2016年は10,526人だったので、比較すると7.6%減少している。



地域内産業の構成割合 (2022年)

水俣市の生産額を指標に産業の構成割合を全国および熊本県と比較したグラフである。2次産業の割合が52.0%であり、全国および熊本県平均と比べて高い。一方、3次産業の割合は、46.8%と全国および熊本県平均に比べて低い。

*1次産業…農業、林業、漁業など
 *2次産業…製造業、建設業、工業など
 *3次産業…商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業、外食産業・情報通信産業など

*地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構造

小売業・卸売業



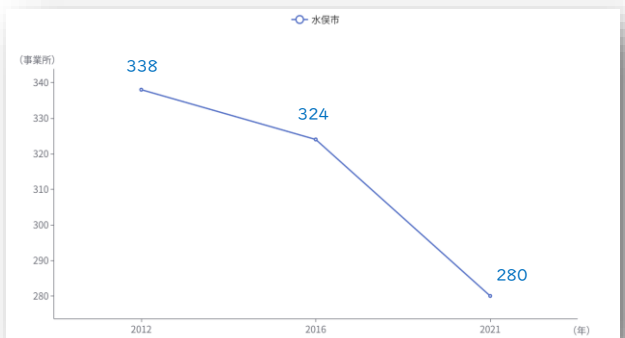
*産業構造マップ→産業構造→推移

売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は35,579百万円である。9年前の2012年と比較すると31,048百万円なので、14.6%増である。

事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は280事業所、2016年は324事業所であり、2016年と比較すると、13.6%減となっている。



*産業構造マップ→産業構造→推移

製造業



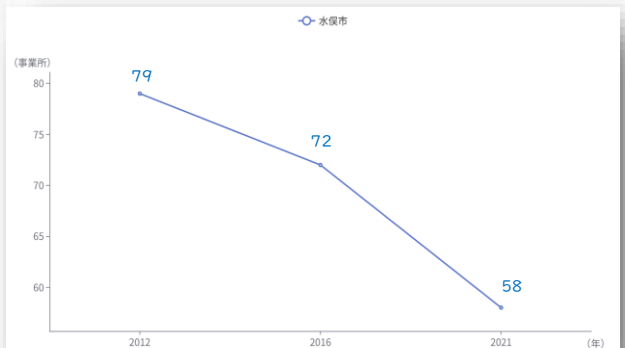
*産業構造マップ→産業構造→推移

売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は、7,991百万円である。9年前の2012年と比較すると44,444百万円なので、82.0%減である。

事業所数(製造業)の推移 (2021年)

製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は58事業所、2016年は72事業所であり、2016年と比較すると、19.4%減となっている。



*産業構造マップ→産業構造→推移

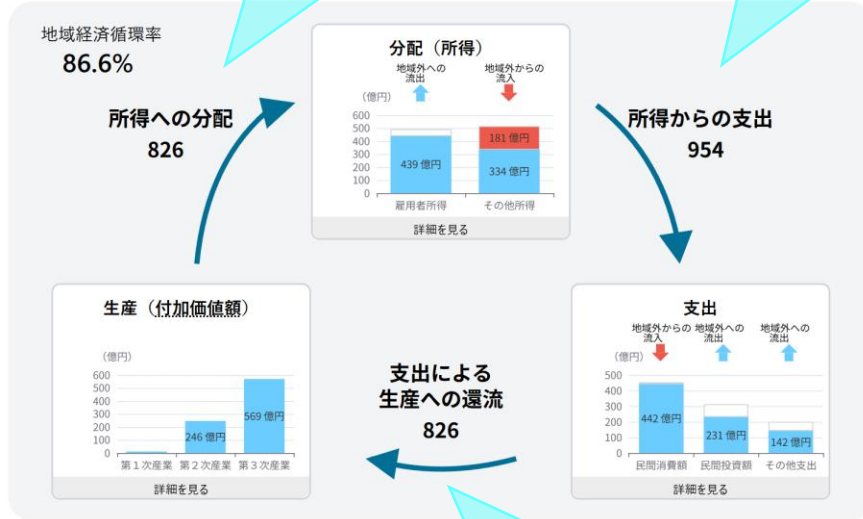
地域経済循環

地域経済循環図 (2022年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。

①水俣市の企業は合計826億円の付加価値を生み出し、所得へ分配している。

②分配(所得)のうち、地域外への流出、地域外からの流入があり、支出に回される金額は、954億円である。



*地域経済循環マップ→地域経済循環分析

③市内で支出に使われた金額は826億円。市外への流出があるため所得からの支出954億円より少ない。

付加価値額の構造分析 (付加価値額順/2021年)

X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額(面積)のチャートである。付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。水俣市では、「卸売業、小売業」の付加価値額がもっとも大きく、「医療、福祉」、「建設業」の順に続く。

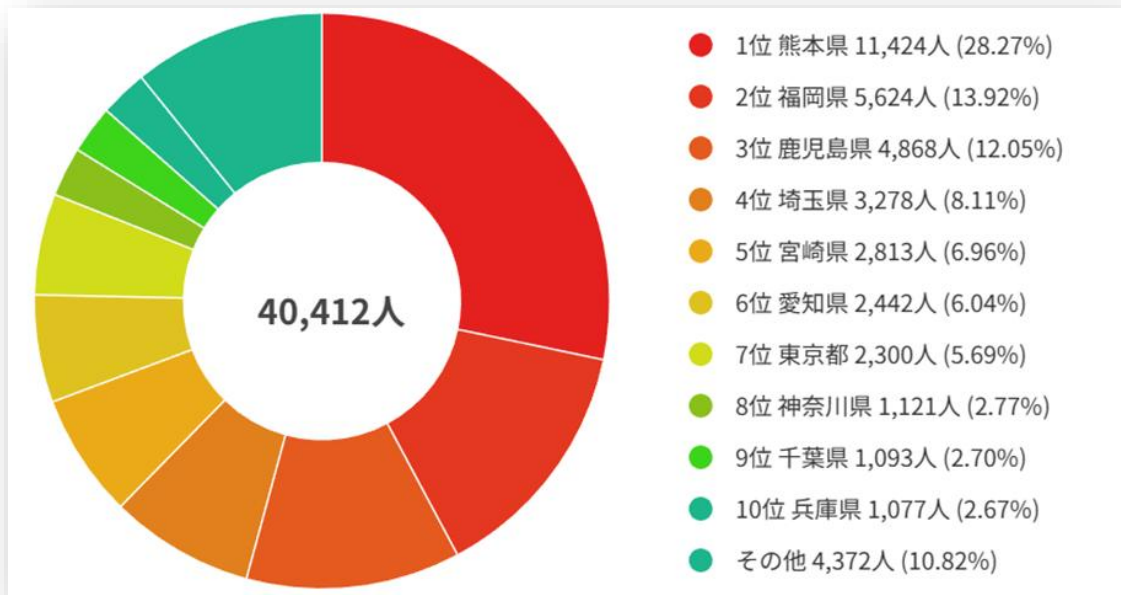


*地域産業マップ→産業構造分析→付加価値額の構造分析

観光

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合（2024年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。熊本県が28.27%と最も多く、福岡県の13.92%、鹿児島県の12.05%が続く。

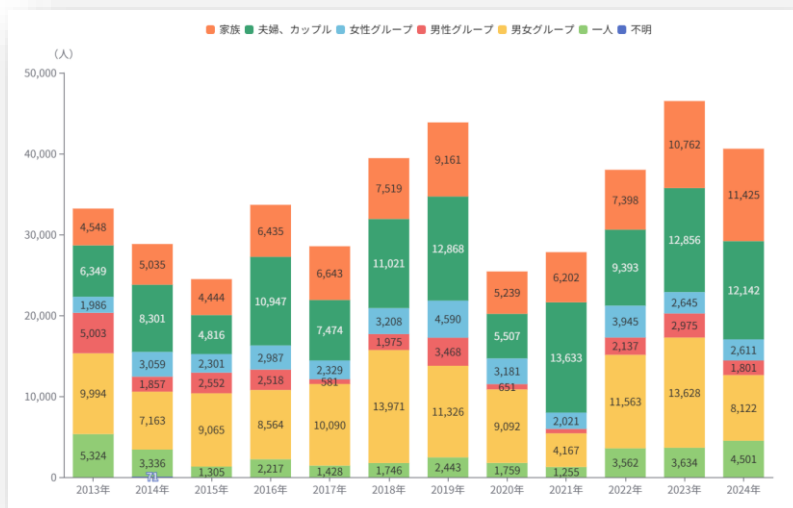


*観光マップ→宿泊者分析→居住地別都道府県別

属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。

2024年では、最も多いのは、「夫婦、カップル」の12,142人、その後、「家族」の11,425人、「男女グループ」の8,122人と続く。



*観光マップ→宿泊者分析→属性別に見る

発行：水俣商工会議所
〒867-0042 熊本県水俣市大園町1丁目11-5
TEL:0966-63-2128 FAX:0966-63-6474
URL:<https://www.minamata-cci.or.jp/>

